

報告第7号

令和元年度教育委員会事務の点検及び評価に関する報告について

令和元年度教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書を別紙のとおり作成したので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により報告する。

令和2年9月4日提出

里庄町長 加藤 泰久

令和元年度

教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書

令和2年9月

里庄町教育委員会

## I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という）により、全ての教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに公表しなければならないことになっております。

本報告書は、地教行法第26条に基づき、令和元年度の点検及び評価を行い、報告するものです。

### 〈参考〉

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## II 点検及び評価の方法等

### 1 対象

令和元年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

### 2 報告

令和2年9月4日 議会に提出

### 3 公表

教育委員会事務局での閲覧

町役場の掲示場に掲示及び町ホームページでの公開

## III 点検及び評価

### 1 教育委員会の組織・活動

#### （1）会議の運営等

教育委員会議会は、定例会を毎月1回（令和元年度：計12回）開催し、必要に応じて臨時会（令和元年度：計2回）を開催しました。（※資料1）全員が出席し（定例第3回・第8回・臨時第2回を除く）十分な時間を掛けて審議及び協議を行い、充実

した運営となっています。審議を深めるための工夫として、事前に事務局に議案書及び関係資料を提出させるよう努め、まだ十分とはいえませんが、今後も引き続き改善したいと考えています。

町長とは、総合教育会議（9月・2月）や諸行事での会う機会を通じて、「小・中学校プログラミング教育について」「コミュニティースクールについて」「非認知能力の育成について」「働き方改革の取組」などについて、意見交換や協議、支援の要請などを行い、連携を強化することに努力してまいりました。今後も町当局との連携を図り、一貫した教育行政を進めることが、重要と考えています。教育委員と町長との懇談や意見交換は、両者の円滑な連携と一貫性を図るために重要であると考えており、今後も引き続き実施したいと考えております。

事務局の職員体制については、陣容を増大することはできませんが、学校教育について、学校の指導支援を行う県費派遣の指導主事を継続して配置しています。また、地域と子ども達を結ぶ教育コーディネーターも継続して町費で配置し、学校教育・社会教育の両面にわたり、専門性を高める取り組みを行っております。今後も、事務分掌の見直し等を図りながら、効果的な体制の整備を図る必要があります。

地域の実情に応じた施策及び地域住民の意向を施策に反映することについては、各校の学校評議員会の意見や、学校・園の「現状」を広く地域住民の方々に知っていただくため、「一日学校公開」を実施し、その際に頂いたアンケートや、「教育を考えるつどい」での意見等も参考にし（※資料2）施策に生かすように努めています。学校教育及び社会教育の両面で工夫や努力が今後一層求められるようになっており、今後も鋭意検討を続けたいと考えております。

教育委員の研修は、委員としての識見の向上と、当町の幼児・児童・生徒の学力向上対策や豊かな成長が推進されるよう、先進地の学校訪問等を通して、具体的な取り組みを研修する事を目的に、岡山市町村教育委員会連絡協議会や県外視察研修を実施しました。（※資料3）

それ以外にも、教育長、指導主事等が定期的に学校や社会教育関係施設の訪問を実施し、現状把握を行ったうえで、業務の見直しや施設の改善を提案しました。

学校（園）の行事や教育委員会主催の行事にも積極的に参加し、実情を理解しました。（※資料4）また、学校の現状把握のために、令和元年5月29日（水）に学校（園）訪問を実施し、各校（園）の抱える課題について教育委員の見解を聴取したうえで、教育委員会の審議及び協議に役立て、可能な限り学校（園）の支援を行いました。

## （2）公開性

教育委員会が、町民にとって身近なものとなるよう、可能な限り情報を公開する方針のもとで、定例会の開催予定を町ホームページに掲載しています。しかし議事内容については、プライバシーや個人情報等で配慮を要する事項も多々あり、今後も慎重に検討しながら進めて行きたいと考えております。

町主催の分館長会議に教育長や教育委員会事務局職員らが出席し、町民の方々から教育行政等についての意見や要望等を出していただき、教育委員会で検討いたしました。公聴活動は、町民の意志を反映した教育行政を推進するために大切なことでもありますので、今後も町民の方々からの意見や要望等をしっかりお聞きし、また教育行政施策の広報について、今後も積極的に行いたいと考えております。

また、教育委員会及び学校・園の取組を紹介した「里ちゃんだより」(※資料5)を年3回発行し、町内全戸へ配付しました。

## 2 教育委員会が管理執行する事務

### (1) 基本的・総務的事務

教育行政重点施策(※資料6)の策定など基本方針の多くは、事務局に原案や資料を提出させ、教育委員会として慎重に審議することができています。

教育関係予算については、各校(園)等の要望を聞き、教育長等が町長へ要求し、教育委員会としての意見を尊重した議案が議会へ提出されるよう努めています。

従来から当町の教育予算の比率は高く、教育が重要視されています。教育予算編成の話し合いにもっと時間をかけ、里庄町の教育がより充実するようになりたいと考えています。

### (2) 人的管理に属する事務

町立小中学校の校長等の任免について県教育委員会に対して内申を行っています。今後とも慎重に行っていきたいと考えています。文化財保護委員等各種委員の委嘱または任免は、教育委員会で議決しています。人的管理に属する事務については、県教育委員会及び町長部局との連携をより密にしていこう努めてまいります。

学校関係職員の研修は計画的・効果的に実施され成果が上がっています。事務局職員の研修は日々の研修と県教育委員会や町長部局に委ねている研修があり、今後も充実させていく必要があります。

また今年度も、外部人材の活用や支援員等の配置、中学校における部活動休養日の設定、夏季休業中の学校完全閉庁期間(8月13日～16日)を設定、幼稚園・小中学校への「自動音声対応電話の導入」の定着など、学校現場における働き方改革に向けて、具体的な取り組みを実施しました。

令和2年3月2日から、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策として、小中学校臨時休業を実施しました。その間、東西小学校放課後児童クラブの通常開所時間を変更し、クラブの支援員や学校教職員、生活支援員や教育委員会が、子どもたちの居場所づくりや心のケアに、一丸となって努めました。

### 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

#### (1) 学校教育

小・中学校の全国学力・学力状況調査の結果は、概ね全国平均のレベルにあります。町としての学力向上の方針を示し、各学校も学校としての学力向上策を定めて鋭意努力しています。

教育委員会としても、学力向上を図るためソフト面やハード面の予算を措置し、また、町内の幼稚園、小中学校の教育職員等を対象に、夏季休業中に教職員研修会を行いました。

いじめ・不登校の解消に向けては、引き続き町をあげて重点的に取り組みましたが、登校できにくい児童・生徒が複数名います。スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、浅口市にある「浅口大簡塾（適応指導教室）」を、浅口市と協定を結び利用可能にする等、今後も継続して解消を目指して取り組んでまいります。

特別支援教育については、特別支援学級・通常学級において指導の充実を図っています。具体的には、町の教育相談員が学校の要請により学校を訪問し、具体的な指導方法について支援しています。また、生活支援員を対象に特別支援教育の理解を目的として、研修会を年間2回実施しています。

小学校の通常学級に在籍している発達障害のある児童は、日常生活での様々な面で困難さを感じています。その解消のため、児童が在籍している小学校での指導を行うとともに、浅口市立六条院小学校内にある「あすなる教室」を、浅口市と協定を結び利用可能にすることで、一人ひとりの児童に応じた個別の支援が受けられるようにしました。そうすることで、学習の不安や友達関係やコミュニケーション面の不安を解消し、感情のコントロールの仕方等を身につけていきます。

少子化の進行などを背景に、子どもの育ちが大きく変化しており、様々な要因から小学校の生活になじめないことも見受けられます。里庄町では、保幼小接続スタンダードを作成し、保育園、幼稚園、小学校が歩調を合わせ、幼児教育と小学校教育を円滑に接続し、子どもの育ちと学びを滑らかにつなげる努力をしています。

さらに、保幼小中のそれぞれの卒業期の姿を設定することで、就学前から中学校卒業までの11年間を見通した保育・教育が行えるようにしています。各卒業期の子どもの姿や、徳知体の各分野で付けたい力を明確にし、「里庄町各園校の卒業期における「めざす子どもの姿」を設定しています。このことにより、幼稚園の先生が中学校の子どもの姿を意識して保育するなど、子どもの育ちの連続性を意識した保育・教育が行えるようになっていきます。

学校が全ての児童生徒にとって、より明るく楽しい場になるように「明るい学校づくり」の取り組みを行いました。子どもの居場所づくりと共に、友達同士や児童・生徒と教師との良好な関係づくりを進め、人間関係形成・社会形成能力を高めていきました。具体的には、子どもにつけたい2つの力として、「相手の気持ちを考えて行動できる力」「積極的に人と関わることができる力」を設定しました。学習面と生活面

で育てたい子どもにつながるような取り組みを行った結果、子どもたちのいじめ件数が減少するなどの効果が見られました。

子どもたちが安心して学習や学校生活が送れるように、幼稚園、小・中学校に生活支援員を配置しています。東小学校 8 人・西小学校に 9 人、中学校 3 人、そして東幼稚園 2 人、西幼稚園に 4 人で、落ち着いた学習環境が確保され、十分な成果を上げています。また、小学校から中学校 1 年生への進級にあたり中 1 ギャップを解消するため、小中連携支援員を 2 人、引き続き配置しました。

子どもたちが、スマートフォンやゲームを長時間する中で、ネット上のいじめや犯罪被害につながるケースが、大きな問題となっています。また、健康面の心配や学習時間の減少など、生活習慣の乱れも指摘されています。令和 2 年 1 月現在、小学校 4 年生～6 年生の 51%、中学校 1 年生～3 年生の 63% の児童・生徒が自分のスマホや携帯電話を所持しています。里庄町では、統一ルールとして、「使うのであれば午後 9 時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後 9 時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。子どもを守るのは、社会の大人全体の責任であり、とりわけ、子どもの一番身近にいる保護者の行動が大変重要です。そこで、統一ルールと合わせて、家庭内のルール作りを子どもと共に進めるよう、各家庭での取り組みの徹底をお願いします。

子どもたちの英語によるコミュニケーション能力の向上に努め、グローバルな人材の育成を目的とした英語指導助手については、町の財政面等を考慮し、令和元年度から自治体国際化協会「JET プログラム」から 2 名の派遣を要望し、従来の民間派遣の 1 名と併せて 3 名での体制に変更しました。

里庄町では、学校給食は子どもたちの体や心を育てるのに重要なものであり、食事は人づくりの上でとても大切なこととして、学校給食に力を入れてきています。自校給食食堂を実施し、小学校ではできたての給食をファミリー形態で食べています。

小・中学校の耐震化・大規模改修工事は平成 19 年度末で完了しており、平成 27 年度には西小学校の非構造部材耐震補強工事を、平成 28 年度には小・中学校の屋根防水工事を、平成 29 年度には小・中学校の教室への空調設置工事の設計を行い、平成 30 年度には、小中学校施設空調整備工事を実施し、普通教室、特別教室等にエアコンを設置・更新、令和元年度には、幼稚園遊戯室へエアコンを設置することで、安全・安心な学習環境が確保されております。

## (2) 社会教育

町民のニーズに応じた各種講座を開設しており、多くの町民が文化活動を通して生きる喜びを感じ、自己実現を図っています。今後も、企画運営を受講者自身が行う講座となるよう、一層の充実に努めます。

岡山県が制定した 11 月 1 日の「教育の日」に関連し、「里庄町教育を考えるつどい」

において講演会を開催、小学校入学前の就学時健診時と中学校入学前の入学説明会の際に子育て講座、保護者同士が共通の悩みをお互い考える、議論し合う講座などを開講し、家庭教育について研修する機会を設け、啓発を行いました。

平成28年度から始めた、学校の授業だけでなく、子どもたちが自ら学び体験することで生きる力を育み、地域全体で子どもを育てていく事を目的とする「さとしょう未来塾」事業も4年目となりました。自学自習を基本とした学習に取り組む「里ちゃん寺子屋」と体験を通じて子どもたちが「生きる力」を身につける「里ちゃんチャレンジ・ワールド」の2本の柱で実施し、地元地域の方々や企業の協力を得ながら、地域の子どもは地域で育てる事をコンセプトに取り組みました。年度末には新型コロナウイルス感染拡大防止措置の観点から中止した事業もありましたが、子どもたちが地元の歴史をあらためて見直し、体験する機会や、防災について考え防災食を作るなど、普段経験できない事業になるように検討・工夫を行いました。(※資料7)

町立図書館は、順調に蔵書数を増やし、令和元年度末に15万3千冊余りになるとともに、町民に親しまれる図書館を目指しております。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度の開館日数は259日、来館者は6万人余りに減少しました。貸出冊数は、約2万人の方に約6万7千点を貸出しておりますが、こちらも減少しました。今後も、県立図書館や高梁川流域7市3町の図書館相互利用等、生涯学習の拠点施設として、町内外から好評をいただけるように努力してまいります。昨年度完成した、子どもたちが喜んで、本と親しめる環境づくりと、乳幼児と親子が安心して利用できる場所「おはなしの部屋」では、親子が読みたい本を自由に手にして読むことや、読み聞かせることで、読書の習慣づけができる環境となっており大変好評をいただいております。また、佐藤清明資料保存会の活動拠点(事務局)となっており、年間を通して「清明研究会」や「清明を読む会」などの活動に取り組んでいます。

男女共同参画社会の推進等、人権意識の高揚に関する講座や行事は、計画通り実施できました。今後も事業の改善を進めながら、状況の変化に適切に対応していく予定です。(※資料8)

文化の振興に関しては、総合文化ホール「フロイデ」や福祉会館、中央公民館などを有効に活用し、町民自らの活力や、行政と町民との協働によって、得られるエネルギーを生かしながら、町民のニーズと本町の実情に合った事業を展開してきました。陸上自衛隊第13音楽隊「ハートフルコンサート in 里庄」では、多くの方々に音楽の素晴らしさを伝えることによって、その結果、幅広く町民の参加が得られ多くの成果をあげることができました。課題として引き続き、施設の老朽化など、課題もあり一層の改善、充実に努める必要があります。

歴史民俗資料館では、「里見山中遺跡」展示コーナーが年度末に完成し、今後遺跡等の展示物は増加の傾向にあります。仁科・小川両博士関係の遺品や、大原焼、麦稗真田関係の物、一般民具や昔から伝わっている農機具などの展示公開も行っており、開館日



の変更や周知方法について、文化財保護委員と検討していきます。

文化財保護委員会は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の指定・解除、保存及び活用に関し必要な事項を調査・研究し、教育委員会に答申しています。本年度は、浜中南分館「平井祐仙宝篋印塔」について里庄町文化財指定の答申を行いました。これに伴い教育委員会では、里庄町文化財に指定を行いました。今後も町内だけではなく町外の文化財研究にも力を注ぎ、保護委員会や研修を行っています。

スポーツの振興については、「つばきの丘運動公園」多目的グラウンドや野球場、テニス場などのスポーツ施設や学校施設を活用して、多くの町民がスポーツを楽しみながら健康の増進を図っています。グラウンドゴルフやソフトバレーボールなどのニュースポーツの普及促進を進めた結果、大会に多数の参加者があり、また、地域や各種団体でも行われるようになっていきます。

青少年を対象にしたスポーツでは、小・中学生対象の柔道・剣道スポーツ教室、少年野球クラブ、少年サッカークラブなどの活動が盛んです。

厚生体育大会は、天候不良が予測されたため、中止となりましたが、準備の段階において、各分館や幼稚園・小・中学校、各種団体の積極的なご協力をいただくことができました。

体力づくりふれあいマラソン大会は、天候不良のため中止となりましたが、参加予定者は小・中学校などの協力を得て、徐々に増えており、特に親子の部にも多くの参加予定者がありました。また本年度も、中学生のボランティアによるマラソンコースの清掃奉仕活動があり、競技だけではなく、側面から力をいただきました。

第9回「晴れの国岡山」駅伝競走大会に、里庄町チームとして初めて出場することができました。町内在住の中・高校生、在住在勤の社会人によって構成されたチームが、9区間を1本のタスキを繋いで、出場29チーム中26位という結果を残すことができました。選手を支えて下さった監督、保護者の方々をはじめ、関係者の力も大変ありがたかったと考えています。

「町民一人一スポーツ」の目標達成を掲げ、誰でも・どこでも・いつでもスポーツができる環境を整備し、健康づくり・生きがいづくり・地域の絆づくりなどにスポーツが利用されることを願っています。

#### IV 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項に基づき、元公立小学校長平野尚哉氏に点検及び評価に関する助言及び意見をいただきました。

「現在の里庄町教育行政について、それぞれの立場で、その特色を活かした教育行政が行われ、概ね良好な運営がなされているように考えている。しかしながら、少子高齢化が進む中で、各学校園の管理・運営状況が、地域の実情や、社会情勢の変化が適切に学校経営に反映されているのか、点検が必要であると考えます。

また、歴史民俗資料館の活用促進を目指した、管理・運営（開館日を含む）の再検討が必要ではないかと思う。町外から引っ越された方も増加する状況で、里庄町の歴史について理解していただく場所にふさわしい環境を整える必要がある。

教育委員会事務局体制について、事務処理の効率化が十分図られているとは言い難く多様な要望、意見などに適切に対応しながら効果的な教育行政の実現に向けた一層の努力が求められている。今後も課題、要望、意見の改善に努め行政に反映させてもらいたい。

最後に、新型コロナウイルス感染症に対する新しい生活様式が叫ばれる今日、教育関係者全員が知恵を出し合い、より良き物を追求する模索の時代に入ってきている。このことをお互い自覚することが、今まで以上に必要ではないかと考える。」との意見をいただきました。

里庄町社会教育委員に点検及び評価に関する助言及び意見をいただきました。

歴史民俗資料館の開館について、学芸員も配置されることもあり、1週間1日は常駐し、毎週日曜日及び平日1日開館を希望。活動次第で入館者も確実に増加する。

歴史民俗資料館に「里見山中遺跡」の展示コーナーができるなど、文化財を通して子どもたちの「郷土愛」を育てることに繋がっていくと思う。

コロナ禍において学校の夏季休業の期間が短縮されると聞いた時、県下でも遅れ気味であった小・中学校の全教室空調機器の設置が出来ていて良かったと思う。

虚空蔵大学やカレッジクラブ・文化協会などが活動している中央公民館について、活動拠点が2階になっているため、参加者の高齢化を考えるとエレベーターの設置を要望します。

保幼小中の子どもの育ちの連続性・情報の共有等できているのが心強いと感じた。保幼小中それぞれの卒業期の姿を設定することで、11年間を見通した保育・教育が行えるようにしていることは、子どもの育ちの連続性を意識することができてとても良い。

プログラミング教育について、子どもたちが社会に出た時必要になると思うので、しっかり教育してほしい。また今後オンライン授業も必要になるのではないかと。

新型コロナウイルス感染症の影響があつて大変だが、子ども達の成長に待ったはありません。みんなで頑張っていきましょう。

## V 終わりに

令和元年度の本町教育委員会事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施し、学識経験者及び社会教育委員の助言及び意見などをいただき報告いたしました。

新型コロナウイルス禍において、今までの常識が通用しない時代が来ていることを認識しております。その中で、今後も教育委員自らが点検及び評価をし、教育委員会を充実させ、教育委員会が町民にとって身近になるよう努力し、町民に支えられた、町民のための教育行政が展開できる教育委員会になるよう、引き続き努力したいと考えております。

# 資料

資料 1

令和元年度教育委員会会議

(1) 定例会

H31. 4月17日(水)	R元.	5月29日(水)	6月26日(水)	7月17日(水)
8月28日(水)		9月25日(水)	10月31日(木)	11月28日(木)
12月18日(水)	R2.	1月29日(水)	2月26日(水)	3月13日(金)

(2) 臨時会

H31. 4月 1日(月)	R2.	2月28日(金)		
---------------	-----	----------	--	--

資料 2

一日学校公開アンケート結果(感想一部抜粋)

幼稚園

- ・よく体を動かし、友達と色々な経験を積んでいる。ますます元気に育ててほしい。
- ・給食の準備で、当番が一生懸命配膳していたことに感動しました。
- ・幼稚園での1日の流れが理解できた。どんな様子で過ごしているかもわかった。
- ・全員に声や指示が届くようにできないだろうか。よそ見をしている子がいた。

小学校

- ・授業態度は、低学年はノビノビ、高学年は落ち着いていて良かった。
- ・トイレのスリッパがちゃんとそろい、生活面の指導ができています。
- ・孫が成長していることが実感できて良かった。
- ・ざわざわしていて残念だった。落ち着いて授業を受けてほしい。

中学校

- ・生徒が自然に挨拶をしてくれて、気持ち良かった。
- ・短時間で要点を理解し活動している生徒の姿に感動しました。
- ・普段は子どもからの話しか聞けないが、実際に授業参観できて良かったです。
- ・学校の案内や、時間割等の配布がなくて残念だった。保護者の交流の場がなかった。

## 教育委員が出席した主な研修会等

7月17日(水)	岡山市町村教育委員会連絡協議会総会 ・総会 ・講演「ネット社会と子どもたち」 講師 石川 千明 氏	くらしき健康福祉プラザホール
11月13日(水) ～14日(木)	里庄町教育委員会県外視察研修 ・テーマ 学力向上と地域連携 13日 越知町立越知中学校 14日 高知市内社会教育施設	高知県越知町・高知市
11月 7日(木)	岡山市町村教育委員会連絡協議会研修会 ・学力向上対策 ・教職員の働き方改革 ・スマホ、ネット問題	ピュアリティまきび

## 資料 4

## 教育委員が出席した主な行事等

平成31年4月 1日(月)	新任教職員着任式
4月 9日(火)	中学校入学式
4月10日(水)	小学校入学式
4月11日(木)	幼稚園入園式
令和元年 5月25日(土)	幼稚園・小学校運動会
5月29日(水)	教育委員学校訪問
6月 9日(日)	小川賞授与式
8月15日(木)	平和祈念式典・戦没者盆供養
8月17日(土)	理化学研究所里庄セミナー
9月 1日(日)	仁科芳雄博士顕彰 ロボット・コンテスト2019
9月 7日(日)	中学校体育会
10月26日(土)	青少年健全育成「未来の会」総会・第19回里庄町教育を考えるつどい
11月 9日(土)	1日学校公開
11月15日(金)	西小学校学芸会
11月22日(金)	東小学校学芸会
12月 6日(金)	仁科賞授与式
12月11日(水)	東・西幼稚園生活発表会
12月13日(金)	仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会
令和2年 1月12日(日)	成人式記念式典
2月 4日(火)	第51回里庄町立志式

※ 幼稚園・小学校・中学校 卒業式については、新型コロナウイルス感染症  
拡大防止の観点から、各園校とも来賓の出席を取り止めとした

# 里ちやんだより

里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

里庄町教育委員会 学校教育の取り組みについて

里庄町教育委員会では、町内の園児・児童・生徒が落ちついた環境の中で、自分のよいところをもっと伸ばしていけるように、今年度は、次のような取り組みを行います。

## 平成31年度（令和元年度）

### 里庄町教育委員会 学校教育の取り組みについて

里庄町教育委員会では、町内の園児・児童・生徒が落ちついた環境の中で、自分のよいところをもっと伸ばしていけるように、今年度は、次のような取り組みを行います。

#### 1 各園校卒業期における「めざす子どもの姿」を明確にした取り組み

幼児期（保幼）、学童期（小）、思春期（中）のそれぞれの卒業時期の「育てたい子どもの姿」を踏まえ、里庄町全体の「育てたい子どもの姿」について教職員が共通理解を図り、保育や教育を進めます。どの校種の先生方もこの姿をイメージして子どもたちに指導・支援を行います。（下部に全体構想図があります）

#### 2 「里庄町明るい学校づくり」の取り組み

学校が全ての児童生徒にとって、より明るく楽しい場になるような居場所づくりを行うと共に、友達同士や教師との良好な関係づくりを進めます。そのために、「相手の気持ちを考えながら行動できる力」「積極的に人と関わる力」を伸ばす取り組みを行います。保育園・幼稚園・小学校・中学校が情報交換を行い、お互いの取り組みの様子を参考にしながら進めていきます。

指導主事 天野 正彦

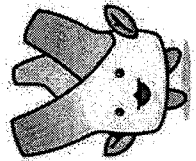
### 里庄町 各園校の卒業期における「めざす子どもの姿」

#### 一人ひとりが主人公になる子ども

めざす子どもの姿	保育園・幼稚園期	小学校期	中学校期
元気な幼児 ・素直な子 ・意欲的に遊ぶ子 ・すこやかな子	<p>めざす子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仲良く遊ぶ集団づくり</li> <li>豊かな感性と表現力づくり</li> <li>健康な心と体づくり</li> </ul>	<p>めざす子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やる気いっぱいの子</li> <li>やさしい子</li> <li>進んで学ぶ子</li> <li>粘り強い子</li> </ul>	<p>めざす子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心をもつ生徒</li> <li>自分を大切にできる生徒</li> <li>意欲的に学ぶ生徒</li> <li>自覚ある行動をする生徒</li> </ul>
めざす子どもの姿	<p>めざす子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仲間を大切にする集団づくり</li> <li>豊かな感性と表現力づくり</li> <li>健康な心と体づくり</li> </ul>	<p>めざす子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やる気いっぱいの子</li> <li>やさしい子</li> <li>進んで学ぶ子</li> <li>粘り強い子</li> </ul>	<p>めざす子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心をもつ生徒</li> <li>自分を大切にできる生徒</li> <li>意欲的に学ぶ生徒</li> <li>自覚ある行動をする生徒</li> </ul>

### 「未来を拓く人づくりと文化活動の展開」

- 生きる力を育む学校教育の推進
  - 学校教育「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」
  - 認めること、落ち着いた集団の確立、主体性の育成、授業改善
  - 学校給食、基礎・基本の徹底、あいさつ
  - 言語活動の充実による表現力の育成（論理的に書く力、コミュニケーション力）
  - 家庭教育（認めること、基本的な生活習慣、しつけ、あいさつ、家庭学習）
  - 地域の人々との連携
- 心豊かで生きがいを感じる生涯学習の推進
  - 地域社会の教育力の向上、地域人材の活用
  - 町民との協働によるまちづくり活動の推進
- やすらぎと誇りを感じる芸術・文化の振興
  - 先人の偉業に学び、地域に受け継がれてきた伝統・文化の伝承
  - 町民の主体的な文化活動と世代を超えての人々の交流
- 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の振興
  - スポーツ・レクリエーション活動の推進
  - スポーツ指導者の養成
- 異なる国や地域・人との交流活動の推進
  - 幼稚園・小・中学校における、国際理解教育・英語活動の推進
  - 国際交流事業の推進を通じて、世界の人々との友好親善の精神を育成





## 自己肯定感を高める集団づくりの取り組み

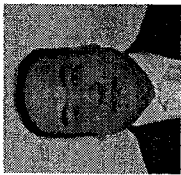
里庄中学校長 池田敬治

本年度は、1年生99名、2年生93名、3年生99名の計285名、11学級でスタートしています。里庄中学校は、創立以来70年以上に渡って「JRC登録式（青少年赤十字）」に加盟し、その理念を取り入れた教育を推進しています。「2分前行動ができる」「はきものをそろえることができる」「あいさつができる」などの素晴らしい伝統をもつ学校です。今年度も、昨年度に引き続き、生徒の自己肯定感を高めることを目指して、「授業づくり」「集団づくり」「学校づくり」を研究の3本柱とし、一人ひとりの生徒が主人公になれる学校を目指し、学校教育目標である「心豊かに学ぶ生徒の育成」の達成を目指します。

また、今年度の生徒会は、昨年取り組んだ「ワンダフル里中生 ～4つの誇り～」をさらに進化させ、「～里中's 生徒会方程式～ あいさつ+校歌+美化+正しい判断=里中生」をスローガンとし、これまでの良き伝統を継承しながら、さらにワンランク上の里庄中学校を目指し、様々なことにチャレンジしていきたいと思えます。さらに、中学生も里庄町民の一員であることを自覚し、郷土里庄を愛し、町の行事等にも積極的に貢献できるようになりたいたいと考えています。様々な行事等に参加する中で、地域の皆様のご支援、ご指導をいただく場面も多くなると思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。



JRC登録式



## 「心豊かでたくましい里見っ子」の育成をめざして

里庄東小学校 東幼稚園長 松原 修

里庄東小学校は、全児童290名、全14学級で新年度がスタートしました。落ち着いた学習環境と学習集団をつくり、より質の高い教育を目指します。また、保護者や地域の皆様と連携し、安全・安心で信頼される学校の創造を目指します。

何事にも前向きな態度で、やる気いっぱいの子「元氣な子」「元氣な子」「助け合う子」が集う学校にしたいと思っています。重点としている具体的な取組は次の通りです。

### (1) 進んで学ぶ子 (知)

○聞く・話す・書くなどの言語活動を取り入れ、表現力の向上を図る。  
○学習の振り返り・反復練習により、基礎・基本の定着を図る。

### (2) 元氣な子 (体)

○望ましい生活習慣を身に付けさせる。  
○運動、外遊びを奨励し、体力向上と健康増進への意欲付けをする。

### (3) 助け合う子 (徳)

○人を大切にすることを心がける児童・集団に高める。  
○主体的に取り組んだり、合意形成したりできる児童・集団に高める。

東幼稚園は、りす組・くま組合わせて39名です。主体的に遊ぶことを通して、「元氣な子」「やさしい子」「がんばる子」「考える子」を育てていきます。幼稚園・小学校ともに、地域の皆様と温かいご支援と見守りをいただきながら、「心豊かでたくましい里見っ子」を育てていきたいと考えています。本年度もどうぞよろしくお願ひいたします。



運動会入場行進

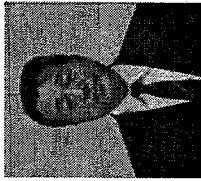
## 里西っ子の「生きる力」を育てる

里庄西小学校 西幼稚園長 柚木 康男

本年度、里庄西小学校は全校児童362人、全16学級でスタートしました。

「切磋琢磨」の校訓と教育目標「里西っ子の生きる力を育てる」のもと、「めざす子ども像」の「よく考え進んで学ぶ子ども」「仲良く助け合う子ども」「明るく元氣な子ども」の3つを目指します。具体的には次の通りです。

- (1) よく考えて進んで学ぶ子ども
  - 学ぶ楽しさ、できる喜びを感じる魅力ある授業づくり
  - 基礎・基本の徹底 ○伝え合う活動の充実で表現力を育成
  - 学習規律の徹底 ○意欲的に進める家庭学習の充実
- (2) 仲良く助け合う子ども
  - 人・時間・協働を大切にすることを生徒指導 ○道徳指導の充実
  - 認めて伸ばし自己肯定感を育む学校行事
- (3) 明るく元氣な子ども
  - 体力づくりの推進と学校安全の強化 ○基本的生活習慣の確立
  - 食生活の充実と食育の推進



運動会大玉送り

西幼稚園の園児数は38名です。小学校と一貫した教育目標を設定し、遊びを通して「意欲をもつてがんばる子」「思いやりのある子」「元氣な子」を育てます。また、保幼小接続プログラムに沿って小学校への円滑で発展的な接続を図っていきます。

本年度も、保護者、地域、町民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、心豊かで、たくましい里西っ子を育てていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

## スマートフォン・ゲームの適切な利用についてのお願い

子どもたちが、スマートフォンやゲームを長時間の中で、ネット上のいじめや犯罪被害につながるケースが、大きな問題となっています。また、健康面の心配や学習時間の減少も指摘されています。里庄町では、統一ルールとして、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。

子どもを守るのは、社会の大人全体の責任です。さらに、子どもが一番身近にいる大人は、保護者の皆様です。保護者の責務として、家庭内のルール作りをお願いいたします。ご家庭で、お子様としっかり話し合せて、子どもも納得するルール作りを進めてください。

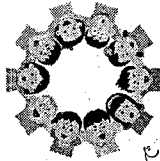
※各家庭での徹底をお願いいたします。

指導主事 天野 正彦

## 教育相談日のお知らせ

日 時	毎週 月曜日・火曜日・水曜日 (原則)
場 所	午前 9:00~12:00 午後 1:00~5:00 「里庄ひつみ会館」(里庄町里見1004)
	相談を希望される方は教育委員会事務局 (0865-64-7212) まで (ご希望日時が重なった場合、調整させていただきます。)

担当者 教育相談員 栗尾康子



# 里ちゃんだより



里庄町教育委員会  
電話 0865-64-7212

## 教育長あいさつ

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、何かと大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。2学期もはや3ヶ月が過ぎ、あと1ヶ月を残すのみとなります。各学校園の子どもたちは元気に過ごしています。これもひとえに学校園の取り組みに対して、家庭、地域の皆様のご理解とご協力のおかげであります。心より感謝申し上げます。

先日の教育を考えるつどいでは、多くの皆様に参加をしていただき、誠にありがとうございました。「学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす」として、講師の方にご講演をしていただきました。その中で、非認知能力が子どもたちの成長に大きく関わっていることや、学校と家庭、地域が同じ方向を向いて子どもたちを育てていくことの大切さを教えていただきました。

今後とも皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、学校教育・生涯学習のさらなる推進を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願いたしました。



教育を考えるつどいの様子

## 里庄町教育を考えるつどい 令和元年10月26日(土)

里庄総合文化ホール 電動中ホール

講師 岡山大学全学教育・学生支援機構 准教授 中山 芳一 先生

演題 「学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす」

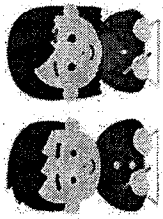


～これからの時代は、非認知能力に焦点を当てて子どもたち育てていく必要がある～

中山先生は、これから AI(人工知能)が急速に発達していく世の中で、認知能力(知能指数などの数値化できる能力)の分野は AI に任せ、これからは、人間にしかない思いやりや協調性、自制心・忍耐力・自信・意欲・コミュニケーション力など点教化できない「非認知能力」を重点的に育てていくことがとても重要なだと説明されました。そのためには、我々大人たちが子どもたちの様子しっかりと見ながら、様々な体験をする中で発揮された非認知能力に気づき、認めることが大切だということです。認められた子どもは、自らその力をさらに伸ばしていきます。非認知能力を伸ばすには、このように周りの大人が行う意識付けがポイントになるのです。

(文責 指導主事 天野正彦)

## 里庄町の子どもの学力は？ (全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より)



全国学力・学習状況調査(小学6年生、中学3年生)全体としては、ここ数年、全国平均と比べてよい年もあれば、やや低い年もあり、特に大きく心配する状況は見られません。今年度は、小学6年生と中学3年生の両方で全国平均を上回りました。

岡山県学力・学習状況調査(小学3年生～5年生、中学1年生～2年生)では、小学校は、学年により傾向は異なっており、国語は県平均を上回る学年とやや下回る学年がありました。算数も県平均を上回る学年とやや下回る学年がありました。中学校も学年により傾向は異なり、国語は県平均より上回る学年とやや下回る学年がありました。数学も県平均より上回る学年とやや下回る学年があります。英語は県平均よりもやや下回りました。

今後、子どもたちのよさや頑張りを的確に認め、自己肯定感を育みながら、一人ひとりの子どもたちも持っている力を、さらに伸ばしていくことが大切だと考えています。

○よくできているところ：漢字・計算など基礎的な内容

★課題と考えているところ：目的に応じて文章を書いたり、説明したりすること。

里庄町では小学校と中学校が連携して、学力向上の重点目標を次の3点に決めて、充実を図っています。

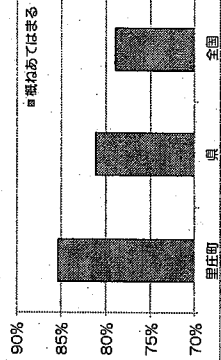
- ①基礎・基本の徹底
- ②表現力の育成(書く力)
- ③家庭学習の充実

今後も、学校・家庭・地域で力を合わせ、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の育成に全力で取り組んでまいります。

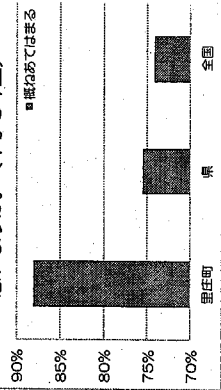
(文責 指導主事 天野正彦)

## 里庄町の子どものよさは？ (全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より)

難しいことも、失敗を恐れないで挑戦していますか。(小学6年生)



自分には、よいところがあると認めますか。(中学3年生)



## 異年齢交流の取り組みについて

里庄東幼稚園・小学校長 松原 修



昔に比べて地域において異年齢集団での遊びが見られなくなってきたと言われます。そこで学校・園では意図的に異年齢での交流の場を設けています。里庄東小学校では、日々のファミリー給食の他に、そのファミリーで遊ぶ「ファミリー遊び」を年数回行っています。また、年度初めの1年生を迎える会でもファミリーでの活動を多く取り入れるなど、1年生から6年生までの交流の場を設けています。

幼稚園・保育園との交流も行っています。里庄東幼稚園と計画した「昔遊び交流」や「虫取り交流」では、年長児と1年生が竹馬、こま回しや、園北側の草むらでの虫取りを楽しみました。また、1年生の生活科では、楽しいお店に東幼稚園と里見保育園の年長児を招いて交流する「秋の会」を行いました。5年生は総合的な学習の単元で、幼稚園と保育園の年長児との交流を計画しました。1学期には両園の園児を体育館に招いて全員でゲームや遊びコーナーで楽しみ、2学期には「つばきの丘運動公園」にハイキングに行き、自然の中で遊んで交流を深めました。

幼稚園では毎月の「誕生会」をはじめ、年長児と年少児と一緒に活動することが多く、さまざまな場面で日々交流を深めています。

このように学校・園では異年齢での交流を通して、年長者が年少者との関わり方を学び、年少者が年長者に憧れの気持ちをもったり、進級進学に期待を抱いたりすることを期待しています。

これからも異年齢での関わりを大切にしたいと思っています。

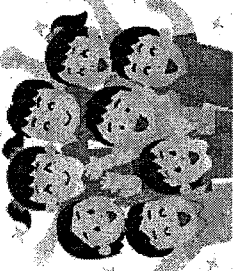


誕生会後の月見団子づくりの様子

里庄町の小学6年生は、岡山県や全国の子どもと比べて、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」と、回答した子どもが多いという結果でした。また、里庄町の中学3年生は、「自分には、よいところがあると思う。」と、回答した子どもが多いという結果になりました。難しいことに出会ったときには、大人でもやる気が低くなったり、自信がなくなったりすることがあります。しかし、里庄町の子どもたちは自分の可能性を信じて「挑戦しよう!」という前向きな気持ちをもっていている子どもが多く、大変頼もしく思います。

また、自分のよさに気づいている子どもが多いことは、里庄中学校が意識して指導を行ってきた「自尊心を高める」ための教育活動が、見事に子どもたちに根付いてきている証拠です。そして、自分のよさに気づいている子どもが多いことは、自分に自信をもち、よさを発揮することで、よりよくなることもできます。さらには、周りの人にも優しく接しながら、自分の生活を豊かにしていくことにも繋がっていくことだと考えます。自分自身を高めていくことはもちろんのことですが、周りの人と支え合いながら成長していくことのできる、知徳体のバランスのとれた、たくましい子どもに育ってほしいと思うと同時に、これからも、この気持ちをもち続けて成長してほしいと願っています。

(文責 指導主事 天野正彦)



## 小学生との交流（学習支援ボランティア）

里庄中学校長 池田 敬治

里庄中学校では、夏休み期間を利用し、里庄東小学校、里庄西小学校に3日間ずつ出向き、学習支援ボランティア活動を行っています。今年度は23名の中学生が、小学校へ出向きました。参加した小学生に対し、年齢の近いお兄さん、お姉さん先生として、一生懸命、学習支援を行いました。

参加した中学生に対する事後アンケートでは、参加した全員が「とても楽しかった」「楽しかった」と回答した反面、約74%の生徒が教えることが「とても難しかった」「難しかった」と回答しました。

次年度に、ボランティアに参加する生徒に対し、「困っているような子がいたら、「ここ難しい?」や「1人で解けそう?」など自分たちから声をかけて、質問しやすい空気をつくってあげるとよい。」というアドバイスもあり、小学生との交流時だけでなく、日頃の中学校での授業中におけるクラスメイトに対する支え合いの心の勉強にもなりました。年明けには、小学校6年生に対し、新入生説明会を行うとともに、中学校での授業体験も計画しています。小学生がスムーズに中学校生活をスタートできるよう、今後も小中連携を大切にしていきたいと思っています。



学習支援ボランティアの様子

## 保育園・幼稚園との交流について

里庄西幼稚園・小学校長 柚木 康男

里庄西小学校では、1年生が、かすみ保育園・里庄西幼稚園の年長児と交流する「なかよし会」を行っています。本年度は、1学期にそれぞれ園を訪問し、国語科で学習した「おおきなかぶ」の劇を発表したり、運動会で行った玉入れを一緒にしたりしました。

2学期には、生活科の学習「あきみつけ」で見付けた葉っぱや木の葉を使って遊ぶ「あきランド」を開き、小学校に園児を招待して一緒に楽しみました。1年生にとっては、学習の発表の場であり、園児にとっては、小学校の学習にふれ、小学校入学への期待をふくらませる機会の一つとなっています。

里庄町では、平成30年度から保幼小接続カリキュラムをスタートさせています。これは、幼児教育と小学校教育のよさをつなげ、保育園や幼稚園での「学びの芽生え」から、小学校（主に第1学年）での「自覚的な学び」へと円滑な接続ができるように作成されたものです。

里庄西小学校では、かすみ保育園・里庄西幼稚園との接続カリキュラムに沿って進めています。保育園・幼稚園と小学校のカリキュラムをつなげていくことで、子どもたちが小学校へスムーズに移行できるように工夫をしています。



2学期「あきランド」の様子



# 里ちゃんだより

里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212

## 「地域の皆様、いつもありがとうございます」

日頃より町民の皆様方には、教育行政の推進につきましまして、格別のご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。本年度も、多くの地域の皆様方に、温かいご支援・ご協力をいただき、子どもたちの元気な声と笑顔が見られるように、学校と家庭・地域の連携を強めながら、健全育成を図ってまいりました。

学期中は、暑い日も寒い日も各地域で、子どもたちの登下校に合わせて実施していただいている防犯・安全活動につきましまして、「子ども安全パトロール員」の方々の積極的な見守りや声かけにより、子どもたちの安全確保に向けた、ご支援・ご協力をいただいております。

4年目を迎えました「さとしよ未来塾」では、地域の方々をはじめ、老人クラブなどの各種団体、町内企業の方々に講師やボランティアとして参加していただき、子どもたちの支援をしていただいております。子どもたちは自学自習やものづくり、様々な体験活動を通じて、地域の方々との連携や、地元地域の良さを理解を深めることができました。

さて、来年度は、小学校学習指導要領の本格実施を迎え、外国語科やプログラミング教育等、新しい学習内容がスタートします。情報化、グローバル化の進展や人工知能の進化等の急激な社会的変化に対応できるように、子どもたちにも必要とされる資質・能力を育むことが求められます。そのためには、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有することが大切になります。

これからも、子どもたちの元気な声と笑顔が見られるよう、学校・家庭・地域との連携を深めていきたいと考えておりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。  
(文責：事務局長 小寺 大輔)

## 第52回里庄町立志式 「強い責任と誇りをもつ決意」

里庄町では、自分の人生を考ええる機会として、里庄中学校2年生を対象に、立志式を開催しています。毎年2月に実施しており、今年度は84名の生徒が参加しました。

記念式典では、加藤町長から「周囲の人に流されない強い心をもち続けてほしい」と式辞があり、杉本教育長から記念品の画材セットが贈られました。生徒代表の近藤もも華さんの発声で「強い責任と誇りをもって立派な大人になります」と全員で宣誓しました。

式典後は里庄中学校の卒業生である、おのはなご商店代表クリエーターの小野華子さんから「夢を持ってワクワクする生き方を～失敗を恐れずチャレンジすることの大切さ～」と題して記念講演があり、挑戦することの大切さを生徒に伝えました。  
(文責：吉川 大和)



立志の誓いを述べる様子

## 「さとしよ未来塾」について

「さとしよ未来塾」は、里庄の子どもたちの健やかな成長を願い、「生きる力」を育む事業です。この事業には2つの柱があります。

### ○「里ちゃん寺子屋」

毎週1回土曜日に、公民館で自学自習をしています。今年度は、小学校4年生から中学校2年生まで、合わせて16名が学習しています。

さらに、新しい取り組みとして「特番・里ちゃん寺子屋」として、中学校の定期考査期間中に自習スペースを設けたところ、2学期未だに、のべ27名の参加があり、子どもたちが進んで学習に取り組まれました。

### ○「里ちゃんチャレンジ・ワールド」

今年度も楽しい事業を実施しました。学年や学区を越えて、一緒に活動して成し遂げる喜びを味わったり、新しい発見に触れたりして、心を揺さぶられる体験をしました。また、里庄町の良さを再発見し、その素晴らしさに気づき、ふるさとを愛おしく思う心も培いました。

来年度は、ふるさとを楽しむ活動を引き続き開催しながら、福祉をテーマーター（蜂谷 真治）に実施予定です。ふるってご参加ください。  
(文責：教育コーディネーター 蜂谷 真治)



里ちゃん寺子屋



冒険キャンプ



歴史探検大原焼



マコモのしめなわ作り

## 令和2年成人式～新成人の輝かしい未来を祈って～



成人式で謝辞を述べる様子

里庄町では、これからの里庄町を担う新成人が晴れて成人の日を迎えられたことを祝い、また、成人としての責任や義務を自覚する機会となるよう、毎年成人式を開催しています。

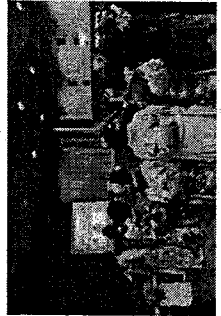
今年度は1月12日（日）に実施し、81名の新成人が参加しました。

式典では、新成人代表者が「ここに集まった仲間たちと、令和最初の成人として、より良い時代を築いていくことを誓います」と決意を述べました。

式典終了後に行われた交歓会では、旧友との再会に加え、小・中学生当時の先生方をお招きし、これまでのことや、これからのことなど、かつての関係性はそのままに、話に花を咲かせていました。また、新成人が中学3年生の時に作成した映像を放映した際、懐かしい顔や出来事に、歓声や笑い声が上がっていました。

交歓会では、新成人の皆様のご健勝と、一層のご活躍をお祈り申し上げます。

(文責：山下 直人)



交歓会でのDVD放映会

## ～スマートフォン・ゲームの適切な利用について～

里庄町教育委員会では、町、学校、PTAと連携して、子どもがネット上のいじめや犯罪に巻き込まれないようにするために、町全体でスマートフォンやゲームの使用についてのルールづくりを推進しています。

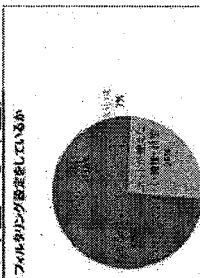
里庄町の統一ルールとしては、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする」としています。特に進級や進学する時に、スマートフォンやゲームを持ち始めることも多いと聞いています。ゲームに動画、SNSなど、スマートフォンは子どもにとっても魅力がいっぱいあります。使い始めると自分でコントロールすることが難しくなります。手遅れになる前に、ルールを守れる環境をつくった上で、使うことが大切になります。お子様が持ち始める時に、親子でしっかりと話し合い、ペアレンタルコントロール（利用時間制限、アプリの制限等）を活用して、親子でしっかりと話し合ってお互いにルールづくりを進め、安全・安心に日々を送れますように、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。  
(教育長 杉本 秀樹)

### 里庄町の子どもの様子（スマートフォン・ゲームの実態調査より）

里庄町教育委員会では、令和元年度に2回、町内小学校4年生から中学校3年生までの児童、生徒にスマートフォン・ゲームの使用について実態調査を行いました。令和2年1月の結果の中から、2つを紹介いたします。

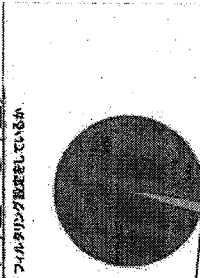
子どもを守るのは、社会の大人全体の責任です。子どもが一番身近にいる大人として、まずは、家庭内のルール作りについて取り組みましょう。特に中学生になると、9時以降のルールが守りにくくなる傾向があるようです。ご家庭で、お子様としっかり話し合って、子どもも納得するルール作りを進めてください。  
(文責：天野 正彦)

#### 小学校（4年生～6年生）



フィルタリング設定をしている子どもが約2割

#### 中学校（1年生～3年生）



フィルタリング設定をしている子どもが約3割5分



守っている子どもが約9割



守っている子どもが約6割

## 里庄町の指定文化財

浜中南分館が所有している「平井祐仙宝篋印塔」を「浜中海月庵の宝篋印塔」として、里庄町指定文化財に認定しました。

享保2年（1717年）に造られた浜中海月庵の宝篋印塔は、当時海だった浜中地域に、干拓により23ヘクタールもの新田を開拓し、里庄町の発展に大いに寄与した平井裕仙とその一族の供養塔です。

岡山山下で文化財として指定された他の宝篋印塔と比べると決して古い時代のものではないですが、精巧で規模が大きいうえ、安定性に優れた石積工法で造られていることから、里庄町の文化財として認定となりました。

また、仁科芳雄博士の生家の案内看板の更新とカゴノキへの誘導看板を作成・設置しました。誘導看板とは、カゴノキ（町指定文化財）周辺に駐車スペースが無く、東公民館駐車場を利用するため駐車場からカゴノキまでの案内のための看板です。カゴノキは本村地区の天満神社飛地に自生している、推定樹齢340年、樹高約12メートル、根回り約6.3メートルのクスノキ科の常緑高木で、天満神社の御旅所となっています。

里庄町の指定文化財はこの他にも、大原鏡彩色狛犬（八幡神社）、絵馬伊勢参詣図（高岡神社）、大原踊りがあります。

(文責：清水 智香子)



浜中海月庵の宝篋印塔

## 里庄中学校 地域清掃ボランティア

里庄中学校1、2年生によるボランティアは、自主的な校外美化活動を通じて、ボランティア精神の大切さを学ぶ機会とすするため、平成29年度から中学校と教育委員会の共催で実施しており、今年度で3年目となります。今年度は2月14日に実施しました。日頃お世話になっている地域に貢献するため、1、2年生の65%以上の生徒が参加して、体力づくりふれあいマラソン大会のコース周辺を中心に清掃活動を行いました。

生徒達は頼りように、普段目に付きにくい側溝の中のゴミ、法面に引っかけかかっているゴミなど、自ら考え、動き、回収活動を行っていました。

ボランティア実施中は、集中してゴミを探す中学生に留意し、スピードを落とさず、笑顔で挨拶をしてくださるドライバーの方や、頑張る中学生にお礼を伝えてくださる方がいらつしました。このように地域に愛され、必要とされていることを知る経験は、子どもたちにとって大きな自信に繋がる良い機会となります。今後も、子どもたちが地域で輝くことのできるような機会作りを積極的に実施していきますので、御協力よろしくお願いたします。

(文責：山下 直人)



ゴミがないかよくチェック！



分別までが奉仕作業

里庄町教育委員会の最重点施策

○ 学校教育の安定と充実

1. 落ち着いた集団づくり

- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 生活規律、学習規律の徹底（あいさつ、そうじ、はきもの、話の聴き方）
- ・ ハイパーQI検査（小1から中3まで年2回の実施）
- ・ 生活支援員の配置（幼小中で計24名）・小中連携支援員（2名）
- ・ 教育相談員及びスクールカウンセラーの配置
- ・ 明るい学校づくり研修会の実施
- ・ 家庭教育との連携（里ちゃんだよりの発行、親学研修、教育講演会）

2. 確かな学力をつける

- ・ 1時間1時間の授業を大切にする（授業改善の推進）
- ・ 全国及び県の学力調査の有効活用
- ・ 小中連携の取り組み

※ 里庄町の学力向上の重点目標

小中連携による落ち着いた学習環境づくりと学習意欲を高めるための授業改善

- ① 基礎基本の徹底
- ② 言語活動の充実による表現力の育成（論理的に書く力・コミュニケーション力）
- ③ 家庭学習の充実（復習・予習を意識して 手引きの活用、生活時間調査）

※相互授業参観、出前授業、体験授業の実施、合同研修会（幼稚園含む）

- ・ 反復学習と補充学習

※朝の学習、帰りの会、放課後学習サポート事業、サマースクールの実施

3. 豊かな心、豊かな人間性の育成

- ・ 人権教育、道徳教育の推進
- ・ 家庭・地域との連携、ふるさと里庄町への郷土愛を育てる  
立志式、二分の一成人式の実施、里庄まこもたけの学習、地域偉人の学習
- ・ 生涯学習との連携（さとしょう未来塾）
- ・ 食堂給食の推進と活用

○ 社会教育の充実

- ・ さとしょう未来塾（里ちゃん寺子屋、里庄チャレンジ・ワールド）を開設（暁天座禅地元企業や国際交流協会との共催事業、陶芸教室、科学教室、歴史勉強体験、地域の方々との共催事業等）
- ・ 子どもに豊かな心や科学的素養が育つ環境や機会を提供（仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会、柔道・剣道スポーツ教室、野球・サッカースポーツ少年団、立志式 等）

○ 家庭教育の充実

- ・ 小学校就学时健康診断や中学校入学説明会時に、子育て講座（親育ちの研修）を開催
- ・ 保護者同士が、子育てに共通する悩みを共に考える講座（子育て未来塾）を開催
- ・ 家庭と地域と学校が連携し、子どもを育むことについて考える「里庄町教育を考えるつどい」を開催
- ・ 町内の学校、園の様子を広く知ってもらうため「一日学校公開」を開催

## さとしょう未来塾

## ○ 里ちゃん寺子屋事業 参加人数

第 1回	6月	15人	第 2回	7月	14人	第3回	8月	14人
第 4回	8月	15人	第 5回	10月	12人	第6回	11月	14人
第 7回	12月	13人	第 8回	1月	13人	第9回	2月	11人
第10回	3月	中止						

参加者 小学校4年生から6年生 16人

指導ボランティア 5人 (町内一般成人4人、町外一般成人1人)

1回あたり平均参加者 13人

※ 中学校定期試験中に、中学生を対象とした寺子屋事業を実施

## ○里ちゃんチャレンジ・ワールド 参加人数 (指導者等含む・複数回数実施は延べ人数)

囲碁教室 63人 (毎月1回)

暁天座禅 276人 (連続4日間)

川柳教室 6人

ハロウィン・パーティー (国際交流協会共催) 302人

土ひねり 48人

学童グラウンドゴルフ 雨天中止

貯金箱作製 (地元企業共催) 48人

焼き菓子作製 (地元企業共催) 47人

工場見学 (地元企業共催) 14人

災害時の食事づくり 30人

里庄冒険キャンプ 61人

わくわく科学ランド 108人

歴史探検1・2 (土ひねりと七輪体験) 18人

歴史探検3 (マコモを使ったしめ縄づくり 町PTA連合会と共催) 22人



人権教育

里庄町人権教育推進委員会 6月25日(火) 25人

総会

研修会

岡山県の人権教育の動向について

啓発映画視聴 「誰もがその人らしくーLGBTー」

里庄町人権教育講座

第1回 7月30日(火) 47人

演題 「多様な性を知ろう  
～セクシュアリティと人権～」

講師 プラウド岡山

代表 鈴木 富美子 氏

事務局 八田 凜子 氏

第2回 8月 7日(水) 46人

演題 「ゲーム・ネットとの距離の取り方～画面の外の遊び  
(チャレンジ)で親も子もイキイキするヒント～」

講師 就実大学

非常勤講師 筒井 愛知 氏

第3回 8月20日(火) 39人

演題 「子どもをわかろうとすること」

講師 岡山大学全学教育・学生支援機構

准教授 中山 芳一 氏